



キャンパス・コラム

卒業生に。古典に学び、友と語ろう!

私がこの春卒業する学生と接したのは、彼らが1年生の時のドイツ語と「欧米の文化と歴史」という授業においてである。その後、現在に至る彼らの成長ぶりは想像に難くない。それはかれこれ20年近く、人呼んで「松下村塾」というある研究室で、卒研生、院生、時には卒業生を交えて催される酒席に呼ばれて、遅くまで話す機会を持っていることによる。

文系の私は、理系の学問の難解さには閉口するが、例えば話題に出る朝永振一郎、湯川秀樹、アインシュタイン、ハイゼンベルク、ファインマンや山本義隆などの数式の少ない著書に触れる時、目のさめる思いがするのである。

また理系の学生たちも、ゲーテやハッセやドストエフスキーなどが話題になれば、暇を見つけては読み、フェルメールが来ているとなれば、

上野まで見に行ったりもする。最近ではもっぱら藤沢周平が話題に上るが、研究室の塾長が「今昔物語」や「竹取物語」を語り、さらに「問はず語り」の面白さに及べば、文系の私も酔いがさめる。

ことほど左様に酒の助けもあって口も滑らか、時の経つのも忘れて守衛に門限を告げられることしばしばだが、そこで気付くのは、1年生の時の彼らとは格段に違うことである。季節がめぐり、幹が年輪を重ねていく樹木のように、学生たちは見ええないところでいつしか大いなる付加価値を身につけている。

「百年に1度」とも言われる「世界同時不況」の今だが、毅然として動じることなく、専門をこえてさまざまな分野の古典に学び、多くの友と語らい、強く心ゆたかに生きてほしいと願いつつ、学窓を巣立つ卒業生のまばゆい後姿を見やりながら、彼らの幸を私は祈るのである。

広報委員 杉田 達雄 (理工学部教授)

編集室

月かたい絆に 想いをよせて
語り尽くせぬ 青春の日々…月

ご存じの方は多いと思います。長瀬剛作詞・作曲のヒット曲『乾杯』の冒頭の一節です。懐かしい曲ですが、今でもお祝い時に歌われることが多いのではないのでしょうか。

『乾杯』を持ち出したのは、ほかもありません。卒業生の皆さんに「おめでとう」と「乾杯」をしたいのと、青春の日々の中央大学で育んだ「絆」を大切に、これからの遙か長い人生の道のりを歩んでいって欲しいと思ったからです。

雄介さんと加藤木健さんの二人は、在学中に「絆」で結ばれました。二人が情熱を傾けた先は、同じスポーツでもサッカーと準硬式野球と、異なっていました。ですが、結んだ「絆」の強さは人後に落ちません。

サッカー部が16年ぶりに大学選手権で優勝した瞬間、がっちりと手を握り合い、笑顔が弾けた二人は、その場に居合わせた私には輝いてみえました。(あいつは)自分にもないものをもっている。こう口をそろえる二人からは、素直で純真な気持ち が伝わってきます。

おもねりもなく、打算もなく、素直に結んだ絆は、失せることのない人生の「宝物」だと思えます。「青春の日々の絆」に乾杯!です。

(入学企画課 伊藤博)

学生記者が取材・編集する大学広報誌

Hakumon

Chuo
ちゅうおう

2009

早春号

2009年(平成21年)3月24日発行 No.210

発行 中央大学広報委員会

〒192-0393

東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉

『Hakumonちゅうおう』編集室

☎042-674-2146

印刷 泰成印刷株式会社

〒130-0026

東京都墨田区両国3-1-12

☎03-3631-8141